

令和5年度第1回公立大学評価委員会 議事録

【日 時】 令和5年5月16日（火）14:00～15:10

【場 所】 県庁本館9階 行政不服審査会室

【議 題】 （1）令和5年度スケジュールについて
（2）第4期中期目標（素案）について
（3）役員報酬の支給基準について

【出席者】 委員長 猪股 裕紀洋 氏 （独法）労働者健康安全機構 熊本労災病院 院長
委 員 池上 恭子 氏 熊本学園大学 商学部 教授 ※リモート参加
委 員 岩本 浩治 氏 熊本県議会 総務常任委員会 委員長
委 員 園田 舞 氏 公認会計士
委 員 中本 秀二 氏 （公財）地方経済総合研究所 常務理事

（事務局）総務部 総務私学局 局長 中村 誠希、
県政情報文書課 課長 坂本 久敏、審議員 福田 晶子、
〃 課長補佐 松岡 和美、主事 迫 佑樹

1 令和5年度スケジュールについて

（1）事務局説明

資料1に基づき、令和5年度のスケジュールについて説明。
→意見なし。了承。

2 第4期中期目標（素案）について

（1）事務局説明

以下について、資料に基づき説明。

- ① 第4期中期目標（素案）について
- ② 令和4年度第3回公立大学法人評価委員会議事録及び中本委員から事前にいただいた御意見ペーパー
- ③ 第4期中期目標（素案）に対する大学からの意見
- ④ アンケート結果概要

⑤ 第4期中期目標（素案）体系図

⑥ 第4期中期目標（素案）

（2）審議概要

① 構成・項目の順番について

（中本委員）

- 構成と考え方について何点か御質問させていただく。
- まず、「1 教育に関する目標」の章立ての中で、（1）、（2）とは別に、「人材育成」について、前文として構成されている。
- これについては、構成建てとしてどうなのだろうと思う。特に思いがあって、このようにされたものなのか。
- 2点目は、「（2）教育内容・方法等に関する目標」が5項目あるが、その順番について。1番目に創造的復興で始まる内容、外国語能力が2番目となっている。これが、上位概念の「重点目標」の順番と異なるという点が少し気になる。
- 「重点目標」では、教育の質の向上が1番目、2番目が自然災害、3番目がグローバル化。この順番と（2）の順番の整合をとる必要がないのかという点。
- 3点目が、「（2）教育内容・方法等に関する目標」の⑤に「教育の実施体制の整備」という項目がある。
- また、「Ⅱ 業務運営の改善・効率化に関する目標」の中に「1 大学運営の改善に関する目標」や「2 教育研究組織のあり方に関する目標」という内容がある。
- この2つの項目間の整合性として、「（2）教育内容・方法等に関する目標」の⑤に「教育の実施体制の整備」だけが入っていることの考え方の整理がこれでいいのかというところを検討いただきたい。
- 最後に、「5 学生支援に関する目標」が（1）から（5）までである。この順番として、重視されている項目の順番に並んでいるのかどうか。順番がこれでいいのかどうかを検討された上でのこの順番なのかどうかということをお尋ねしたい。
- （4）の地域企業や地域社会と連携したキャリア教育の推進や（5）の地域産業界と協働した県内就職の促進。
- 県内就職の推進は、今年度かなり力を入れて取り組まれたのではないかと思うが、それが最後の項目になっている。私自身はもう少し上に挙げてもいいのではないかと思った。

(事務局：坂本課長)

- 人材育成が別建てになっていることについて、これまでの経緯を踏まえてそのままにしている部分があるので、御指摘を踏まえて、改めて全体的に検討する必要があるかと思っている。
- 教育に関する目標全体として、大学において、しっかりした人材を育てるということを冒頭の全体に係る部分として持ってきて、その後に各項目を設けたということ考えている。
- ここの考え方については、御意見を踏まえて、大学の意見も聞きながら整理してもよろしいかと思う。
- 2～3ページの(2)教育内容・方法等に関する目標の順番については、従前の順番を踏襲したという整理なので、いただいた御意見を踏まえ、改めて順番を考えさせていただいて、大学とも調整し、形を整えさせていただきたい。
- 項目間の整合性についても、整理させていただく。
- 学生支援に関する目標の項目の順番についても、これまでを踏襲した形になっているため、御意見を踏まえて、検討させていただく。

(猪股委員長)

- 第3期から第4期とだんだんとブラッシュアップしていく過程で、この部分でどうかと考えていると、他でダブったりとか、そういうことがおそらくあるのだろうと思う。
- 再度、全体を見ていただいた上で、整理をしていただければと思う。

(中本委員)

- 学生支援に関することについて、どれを優先的に取り組まれるかというのは色々なお気持ちがあると思う。

(事務局：坂本課長)

- 学生の立場に立ちつつ並べてあると理解しているが、委員の皆様の御意見を踏まえ、整理させていただきたい。

(猪股委員長)

- 学生支援に関する内容は、かなり概念的に書いてあるところと、経済的支援など、非常に具体的に書いてある部分とが混ざっているので、軽い、重い、をつけにくいのもかもしれない。

(中本委員)

- 地元経済界は、やはり人手不足が深刻で、県立大学から地元就職してもらえることへの期待は相当高いと思うが、それが5番目の項目というのが良いのかなという思いがある。

② 職員の人手不足・女性のエンパワーメントについて

(園田委員)

- 中本委員がおっしゃったように、人材不足というのは、社会でとても深刻であることと思う。そこで、県立大学自身の人事について。
- 人の採用や不足にどう対応するかについては特に触れられていないが、大丈夫なのかというのが分からない。
- どの企業も採用コンサルを入れて、職場としてどう魅力的なのかという点の発信に力を入れている。
- もし、不足をしているということであれば、これからもっと状況は深刻になり、良くはならないと思うので、目標として掲げて、人の確保にかなり本腰を入れて取り組まないといけないのではないか、と思っている。
- 今どのようなことをしているか、どのくらい人が足りているかわからない状況で申し上げているので、もし不足があれば目標として掲げるべきかと思う。
- もう一つ、少し古いトピックではあるが、「女性のエンパワーメント」について特に触れられていないのが気になる。
- 私は、神奈川から3年前に熊本に結婚で引っ越してきた。個人的な感想にはなるが、特に女性の方が県外に出て行きづらい。
- もちろん県内で就職していただきたいという思いがあることは承知しているが、羽ばたいていくのに何か引っかかりがあるような考えを持たれている方が多いように感じる。
- 男性を立てないと（いけない）という考えを持たれている方が、若い方でも多いように感じる。

- 「職業観を持ち、主体的に自らの職業人生を構想・設計」というのもあるが、その過程で子供を産んだり、結婚したりということがある中で、パワーを失わずに、自分の人生を歩いていく、というところに触れてもいいのではと思う。

(猪股委員長)

- 「Ⅱ 業務運営の改善・効率化に関する目標」の「3 人事に関する目標」の中で大学業務全般について、とあるが、園田委員の意見は、教員だけでなく、いろんな職種全て含めたところなので、そこらへんを大学の意見を聞いたうえで盛り込むかどうか検討いただきたい。
- 2つ目（女性のエンパワーメント）は非常に重要なポイントで、この目標素案の中に一つも出てこないというのは確かに問題なのかもしれない、と私も言われて気付いた。
- 熊大では「女性枠」のようなものを学生に作ろうかという話もあるくらい。
- 教育の点、人事の点、いろんなどころに掛かってくる話だと思う。どう盛り込むかが難しいところではあるが、言葉として入っても然るべき時期ではある。
- 地理的なことも御指摘いただいたが、熊本の特性だと言われると問題もあるので、検討いただきたい。

(事務局：坂本課長)

- 人事について少し補足をさせていただく。
- 職員についてだが、県立大学という特性上、25名ほど県職員を派遣しており、合わせて大学側で雇用したプロパー職員が一緒になって働いているという体制。
- 県職員の派遣数や、運営費交付金の関係もあり、プロパー職員の数が適正かどうかという点も含めて、県でも確認している。
- 公立大学の特性があって、今のところ職員に不足はないというところ。
- 県の立場としては、地方独立行政法人という形態ではあるので、プロパー職員がしっかり育て、ある程度独立した運営ができることが望ましいということはベースにある。
- 大学の職場としての魅力をアピールして、独自の職員を育てていくという体制は必要。

③ 認証評価結果の中期目標・計画への反映について

(池上委員)

- 昨年度大学基準協会の認証評価を受けられていると思うが、その結果を中期目標・計画に反映することになっている。
- 大学のHPにも公開されており、拝見すると、とても評価が良かった印象だが、(中期目標・計画には)どのように反映されるのか。
- 具体的に気になっているのは、唯一の改善課題が大学院の定員未充足という点。素案の「(1)入学者受け入れに関する目標」の「② 大学院は、高度な専門知識……」のところに反映されているのか。
- 認証評価で、改善課題がたった一つというのは、すごく優秀。それがなければ満点だったということなので。
- ずっと前から気になっていて、昨年、定員削減もされたが、定員削減以外に中身を充実させるということが大事だと思うが、その点は今申し上げたところに含まれているのか。

(事務局：坂本課長)

- 認証評価の結果について、先ほど資料の中でもあったが、第3期中期目標の終了時の検討ということで、第3回、8月に(開催される評価委員会において)、大学の継続の必要性等の整理と合わせて、今期の目標に基づく大学の運営についても議論いただくこととなっている。
- その結果、指摘事項は、大学院の定員充足率等になると思うので、これを踏まえ、目標の中に、御指摘いただいた表現に、何か反映させるということになるかと思う。
- 今回の素案では、内部進学者が多いため、内部進学者を中心とした書きぶりになっているが、もう少し工夫するなど、検討させていただきたい。

(猪股委員長)

- 目標には質的な話を書いているが、この後、計画が来る。その計画の中に量的な部分も出てくるのかと思う。

(事務局：坂本課長)

- 現計画の中でも、大学院の定員に対する充足率というのを数値目標で入れている。

- 計画とその実績評価の中では、そういった踏み込んだ内容まで入ってくる。

④ 情報発信・認知度向上について

(岩本委員)

- 今回初めて参加させていただくが、そうでなければ、県立大学について余り認識していなかった。
- 今、TSMC関係で、熊大の話題がよく出てくる。県内の大学といえば、熊大、崇城大学、学園大学といった感じ。
- 県立大学においても、目標素案の5ページにある情報公開や情報発信を十分推進していくことが大事だと思う。
- 今日、初めて知ったが、大学院まである。その方々がどういう分野で活躍しているのか、そういったことをもっと発信していくと、大学院生も増えていくのではないか。
- 学生の親御さんたちは知っていると思うが、(その他の方は)県立大学がどういう大学なのか十分掴めていないのではないかと思う。
- また、先ほど、園田委員が言われたように、以前女子大だった流れもあるので、女性に関する文言も入れないと、女性の立場が全然出ていないと思うので、目標に入れていただければと思う。

(猪股委員長)

- 大学の認知度を高めるという点について、この第3期中もだいぶ頑張ってこられたということは、各年度の評価の際に報告があったことと思う。
- 正直、まだ少し地味かなと感じられる面はあると思う。今、いろんなコンソーシアムの中で、大学間の連携でTSMCが絡んできているので、噛んでいったらどうか。
- 大学がどうお考えかというところもあるが、検討いただきたい。

(事務局：坂本課長)

- 確かに、露出・情報発信が不十分というのはそのとおりかと思う。
- 大学と話をしたところ、定員が毎年500名くらいで、例年2000人程度受験者がいる中で、今年は1500人程度まで落ちたとのこと。

- 学長は、時々、落ちることがあるということと、コロナが収まってきて、県外に出ていく学生が増えてきたのでは、とおっしゃっていた。
- 県立大の対策としては、県内高校から約75%入学していることもあるので、県内高校へのPRをもっと強化していかなければならない、といった話をされていた。
- それもあるが、今、お伺いしたとおり、もっと幅広く県立大学の魅力を発信していく必要があるかと思うので、大学とも話したい。
- コンソーシアムについては、昨年度の事業実績評価の中で、「緑の流域治水」に関して、国の補助金を受けて、肥後銀行や県も一緒に入って、熊大とも連携して研究を行っている。そういったことをもっとアピールする必要があるかと思う。
- TSMCの進出に関しては、熊大が中心となって、半導体人材育成関係で国の補助が受けられることになっており、県立大学もそれに連携することになっている。
- ただ、熊大の露出に比べて県立大学の露出が少ないのは確かである。御指摘を踏まえ、PRの強化について、大学とも共有したい。

(猪股委員長)

- 流域治水の件は大きくニュースになっていた。なぜ県立大学なのか、というのがもう一声あるとアピールできるかと思う。
- また、多くの大学が高大連携に手を入れ始めている。県立大学も少し頑張ってみてもいいかと思う。何もされていないということはないと思うが。

(事務局：坂本課長)

- いくつかの高校と連携して授業を公開するなどの取組をしているが、それが知られているかという、十分知られていないのではないかと受け止めている。

⑤ 英語教育について

(猪股委員長)

- 私からは少し細かい話だが、「(2)教育内容・方法等に関する目標」の②に、あえて、「より実践的な学びを通して」という一文を入れているが、これは具体的にどういうことを想定しているのか。

(事務局：松岡補佐)

- 「もやいすとグローバル育成プログラム」というプログラムで、フィールドワークなどを行っている。
- それをステップアップさせて、海外への展開、令和4年度はカンボジアに学生がインターンシップに行っている。
- また、ディスカッションを含む授業など、海外との交流を深めるというところで、実践的な教育を図っている。
- 語学教育だけでなく、幅広い取組もどんどん進めていこうとされているので、そういうことを踏まえた表現となっている。

(事務局：坂本課長)

- 少し補足をさせていただくと、「もやいすとグローバル育成プログラム」という枠を作って、地域に貢献しながら国際的なことも学んでいく人材を育てるということ。
- カンボジアの件は、白石理事長とJICA（国際協力機構）との関係があり、カンボジアとの関係を作られて、現地企業でのインターンシップを3週間くらい行っている。できるところから拓げられている。

⑥ KPIについて

(中本委員)

- 質問だが、通常、民間企業であれば、計画を立てる際は、数値目標（KPI）を設定することが多いと思う。
- 大学においては、計画を作り、その計画の中に係数的なものが入ってくるとは思うが、目標の中にKPIの設定は行わないのか。

(事務局：坂本課長)

- 目標として大きな方向性を示して、KPI等、具体的な計画については大学の計画の中で書き込んでいただくという建付けになっている。
- 地方独立行政法人法の制度設計が、目標では大きな方向性を示して、あとはできるだけ大学の自主的な運営を尊重し、事後チェックを県で行うことになっている。
- 具体的な目標は大学側で設定し、達成してもらうという仕組み。

3 役員報酬の支給基準について

(1) 事務局説明

資料3に基づき、役員報酬の支給基準の改定について説明。

→意見なし。了承。

4 報告：放射性同位元素（ニッケル63）を内蔵した機器の誤廃棄について

(1) 事務局報告

県立大学が作成した当日付けの「報道資料（お詫びとご報告）放射性同位元素（ニッケル63）を内蔵した機器の誤廃棄について」により報告。

(2) 委員コメント

（猪股委員長）

- 私たちが言うことではないが、徹底的に調べられたほうがいいと思う。
- 私が大学にいた頃、これで大変な目にあったことがある。
- 二度くらいもうありませんよね、ということで全部探してもらったが、その後また出てきたということがある。
- 特に古くなってくると、どこに何があったか把握していないことが多い。
- 一度あった場合、せっかくの機会なのでよく調べられた方がいいかと思う。

（中本委員）

- 私も銀行で総務部長をしていた経験から、法律に基づいて処分しなければいけないものは、再発防止策としてリスト化しておくというのは当然あるが、現物に廃棄ルールを貼っておくことがとても重要。
- そうしておかないと、リストを一回一回確認しながら処分しなければならないため、非常に難しいという経験がある。個人的な意見として申し上げておく。

以上